



7 月上旬の大雨により早生種等で炭そ病の果実感染が心配されます。加えて、連日の高温でハダニ類・主要害虫の急激な発が心配されます。引き続き、一定の間隔で薬剤散布を進めてください。尚、散布前に徒長枝等の夏季管理を適宜実施し薬液が通りやすい環境を整えてください。

## りんご 7 月下旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

◆ 散布日：7 月 日  
◆ 散布量： リットル

- ◆ 散布時期：7 月 20 日～25 日
- ◆ 散布薬剤：水 100 リットル
  - 展着剤 10ml \*注意事項①参照
  - スターマイトフロアブル 50ml（前日、1 回） \*注意事項②参照
  - 劇剤 オリオン水和剤 100g（前日、2 回） \*注意事項④参照
  - オキシラン水和剤 200g（14 日前、4 回）
  - スイカル 100g
- ◆ 散布量：10a 当り 600 リットル
- ◆ 対象病虫害：輪紋病、炭そ病、褐斑病、斑点落葉病  
ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類

- ◆ 注意事項 \*必ずお読みください。
- ① 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、機能性展着剤のササラの 2000 倍（100 リットルに 50ml）を使用すると薬液が葉裏（毛じ間）によく広がり、散布後の乾きも早くなる効果がある。（殺ダニ剤との相乗効果期待できる）
- ② スターマイトフロアブルに代えて、ダニサラバフロアブル 1000 倍（前日、2 回）でもよい。
- ③ ハダニ類対策：梅雨明けが早まった場合や発生が目立つ場合（葉裏が赤色に見える等肉眼で判断できる場合）は、上記の日程より前倒しで実施する。
- ④ オリオン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。
- ⑤ シンクイムシ類対策：被害果は必ず採取して水没処理する。（二次被害の発生防止）
- ⑥ 枝らん病・褐斑病対策：トップジン M 水和剤 1,000 倍（前日、6 回）を加用する。
- ⑦ 園全体に薬液が到達するように散布量は多めに設定する。特に園が込み合っている場合は、外周等に死角がないように手散布等で補助する。

◆ 次回散布予定：8/5～10  
次回（8 月上旬）は、盛夏期の薬剤散布です。シンクイムシ類等の被害が心配されます。引き続き、散布間隔 15 日を維持してください。

◆ 次頁もお読みください。（梅雨明け～盛夏期の殺ダニ剤のローテーション記載）

➡ りんご殺ダニ剤の選択について

○：効果ある    △：効果やや劣る    ×：効果ない

薬剤名	倍率	使用基準	使用回数	IRACコード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
ピラニカ水和剤	2000	21 日前	1 回	21	○	×	○	○	○
カネマイトフロアブル	1000	7 日前	1 回	20	○	○	○	○	○
マイトコーネフロアブル	1000	前日	1 回	20	○	○	△	○	○
オマイト水和剤	750	3 日前	1 回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1 回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1 回	23	○	○	○	○	△
スターマイトフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2 回	25	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○

① 梅雨明け～盛夏期の殺ダニ剤ローテーションについて

➡ 7月下旬（7/20～25頃）スターマイトフロアブル（速効的・成虫に効果あり・残効14日程度）↓

➡ 8月下旬（8/20～25頃）：コロマイト乳剤1,000倍（速効的・成虫に効果あり・残効短い）

② 8月上旬にハダニ類の発生が目立つ場合は、8月下旬散布予定のコロマイト乳剤を繰り上げて散布する。

③ ダニサラバ・スターマイト・ダニコングは同一薬剤系統である。抵抗性回避のため、いずれかを年1回のみ使用とする。

④ ダニサラバは成虫に対してやや遅効的効果を示す。散布7日後以降に効果が発現する。

⑤ オマイト水和剤は、ナシ類の登録がないので飛散しないように注意する。

⑥ イカズチ WDG 等の合成ピレスロイド剤は、殺ダニ登録はあるが効果はほとんどないので、盛夏期のシンクイムシ類対策として使用する。（抵抗性が出現しやすいため、合成ピレスロイド剤は年2回の使用とする）